Book Fan Newsletter

発行：平成25年7月15日
編集：塩尻市立図書館
0263-53-3365
（Book Fan Newsletter　13号）

書店員が選んだ 今月のおすすめ本

『<旭山動物園>革命　夢を実現した復活プロジェクト』

小菅　正夫 ／ 著　角川書店

日本の最北端にあるこの動物園は廃園の危機から一転、職員や関係者の努力で復活に成功し「日本一の動物園」として話題となっているが、その根底には、他の動物にはない「自分だけが持つ能力」が発揮できる環境づくりが人々を魅了しているからである。このプロジェクトにはあらゆるビジネスモデルの原点があると確信させられる１冊です。

（神田堂　大塚さん）

『今やる人になる４０の習慣』

林　修 ／ 著　宝島社

今や流行語になった「いつやるか？今でしょ」で大ブレイクしたカリスマ講師林修の第２弾。実践的な仕事のノウハウ本で盛りだくさんな内容なのに文章が簡潔でわかりやすくかつ的確にアドバイス。具体例が多く自分にあてはめやすく、社会人や大人には自分を冷静に見つめ直す事ができ人生にプラスになることが見つかる、そんな本です。

（興文堂平田店　降旗さん）

『桜ほうさら』

宮部　みゆき ／ 著　ＰＨＰ研究所

武士の笙之助は、父が被った冤罪を晴らすため、江戸で長屋暮らしをしています。当てのないまま過ごす日々で起こる、大小さまざまな出来事。それら四つの短編が少しずつ繋がって、物語の結末へと向かいます。

正統派時代小説で、ミステリー小説で、主人公の成長物語。遣り切れなさを補って余りある爽快感残る一冊です。

（中島書店　青木さん）

『昨夜（ゆうべ）のカレー、明日のパン』

木皿　泉 ／ 著　河出書房新社

いま人気の脚本家が、初めて小説を手がけた。

主人公のテツコは２７歳。亡き夫の父と、それぞれの自立した生活を尊重しつつひとつ屋根の下で暮らしている。大切な人を亡くした喪失感を心のすみに抱えながらも、日々の営みの中から何気ない日常の会話が生まれ、人との輪は広がり、そして前に進んでいく内なる力がゆっくりと静かに充ちてゆく。心にしみいる一冊。

（中島書店　小野さん）

『ぼうけん図鑑』

ホールアース自然学校 ／ 監修　ＰＨＰ研究所

最近の図鑑はすばらしい！！

山道の歩き方、飲み水のつくり方、自然を感じて遊ぼう！ など夏休みにピッタリな「ぼうけん」の情報が満載です。緊急時や災害時など、いざという時に役立つ図鑑。

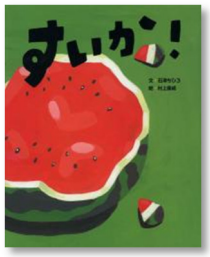
子どもの興味をひくように写真がふんだんに使われており、大人が読んでもおもしろい内容となっています。

この他にも数多くのユニークな図鑑が刊行されています。ぜひ一度見に来てみてください。

（丸文塩尻書店　金子さん）

図書館員が選んだ

今月のおすすめ本



『すいか！　（にじいろえほん）』

石津　ちひろ / 文　村上　康成 / 絵　小峰書店

　ある晴れた日、うららちゃんとだいちくんは、おじいちゃんのすいか畑へやってきました。すいかは真っ赤で、甘い香りに誘われて動物たちが集まります。

　すいかの３文字を頭文字にした文章が面白く、すいかを食べたくなる絵本です。

（児童書担当　浦野）

『こうのとり追って　晩産化時代の妊娠・出産』

毎日新聞取材班 / 著　毎日新聞社

　女性の晩婚・晩産化が進むにつれ、不妊をはじめとする妊娠・出産に関する問題が増加しています。当事者以外には理解されづらく、またその事態に直面するまで知られることの少ないこれらの問題について、体験者の声を丹念に取材し、専門家の知見や法律についての解説も交えたルポルタージュです。

（自然科学分野担当　大深）

『平家物語・木曾義仲の光芒』

武久　堅 / 著　世界思想社

　長野県と深い係わりを持つ木曾義仲。この本では平家物語に描かれた義仲の人生を、彼を取り巻く多くの人間関係と共に史実もふまえながら追っていきます。

　多様な登場人物にも驚きますが、中でも、義仲の育ての父親となる兼平に「この子を立派な人になるよう育てよ」と半ば強引に幼い義仲を渡したという、彼の母が取り上げられるのは珍しいです。そしてこの言葉のために、義仲は波乱に満ちた人生を送ることになるのです。

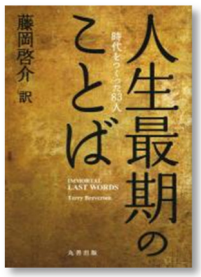
（郷土資料担当　上條）

『アンニョンハセヨ！韓国文化　１　韓国ってどんな国？』

孫 奈美 / 文　李 柾玟，ＫＪハングル講座/ 監修　汐文社

日本と海を挟んでお隣の国、韓国。その韓国の知っているようで知らない文化を知ることができるシリーズ全３巻の１冊目。この巻では、文化、郷土料理、日本との関係など様々なことを学ぶことができます。

（児童書担当　中澤）



『人生最期のことば　時代をつくった 83 人』

Terry Breverton / 著　藤岡　啓介 / 訳　丸善出版

人生の末期に臨んで残された言葉は、心がゆさぶられたり、励まされたり、考えさせられたりと今を生きる私たちへの贈り物ともいえます。またその言葉からは、その人が歩んできた人生を垣間見ることができます。

歴史に残る海外の偉大な先人たちの「人生最期のことば」をたどってみませんか？

（歴史分野担当　米山）